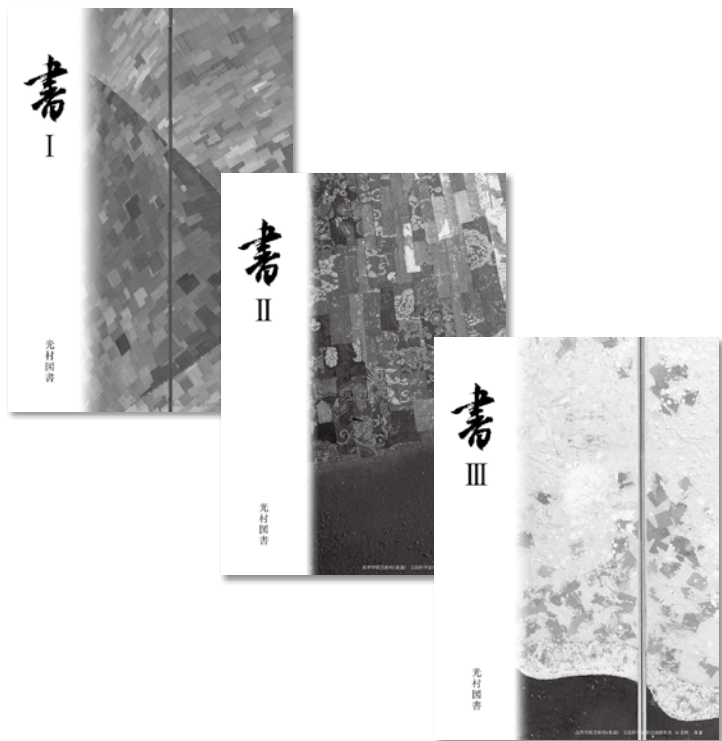


平成23年度版教科書  
検討の観点と内容の特色



科目名	書道Ⅰ	書道Ⅱ	書道Ⅲ
教科書名	書Ⅰ	書Ⅱ	書Ⅲ
番号・略称	38光村	38光村	38光村
記号・番号	書Ⅰ 012	書Ⅱ 012	書Ⅲ 007

光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎 2-19-9 電話 03-3493-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

項目	観 点	書Ⅰ 特色・具体例
1 内容の 選択・ 程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>*学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>*基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆書道の幅広い活動を通して表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばすため、A表現、B鑑賞の教材がバランスよく、しかも相互に関連を図りながら適切に配置されている。</li> <li>◆「漢字の書」では、晋や唐代の基本的な古典を中心しつつ、北魏の楷書や宋代の行書など、時代を代表する古典が精選され、骨書きや筆順等の提示など、生徒の学習の助けになるような工夫もされている。</li> <li>◆「仮名の書」においても、古典の種類が適切に精選され、なおかつ段階を踏まえた構成になっている。</li> <li>◆「漢字仮名交じりの書」では、古典とのかかわりをおさえながらさまざまな書きぶりの作例を提示することで、生徒を主体的な創作に導けるように構成されている。</li> <li>◆「創作しよう」では、3つの分野ともに実際の活動場面の写真を使って創作手順が提示されており、生徒の目線にたった編集意図がうかがえる。</li> </ul>
2 組織・ 配列・ 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>*内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「漢字の書」では、幅広い時代や書風の古典が、表現と鑑賞の学習との関連を図りつつ系統的に提出されている。</li> <li>◆「仮名の書」では、例えば高野切第三種では、連綿学習、半紙に大きく5文字で臨書、半紙に歌一首を全体の構成を考えて臨書、と段階的に学習できるように配慮されている。</li> <li>◆「漢字仮名交じりの書」では、前半では導入程度とし、後半では「漢字の書」や「仮名の書」での学習に基づいた創作を中心に取り上げるといふ、学習順序に配慮した構成になっている。</li> <li>◆「篆刻」では、書道Ⅰでも多く取り扱われているという学校現場の実態を考慮し、実際の制作に役立つ篆刻の手順が丁寧に取り上げられている。</li> <li>◆「生活の中の書」では、毛筆・硬筆を使った年賀状例やのし袋の書き方が示され、書道Ⅰでの学習を日常生活にも生かすよう配慮されている。</li> <li>◆「中国・日本書道略年表」や「中国・日本書道関係地図」は、教科書の内容と関連させながら活用できるよう工夫されている。</li> </ul>
3 表記・ 表現および 使用上の 便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>*学習意欲を高めるための配慮がなされているか。</li> <li>*用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。</li> <li>*印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆随所に小コラムが設置され、それぞれ提出古典に関連する内容が短文で書かれており、ミニ知識として、また書への関心を喚起する助けとなっている。</li> <li>◆3つの分野の前にそれぞれ導入コラムとして「世界文明と漢字」「日本文化と仮名」「美のイメージと表現方法」が設定されており、そこから書の学習にスムーズにつながるように配慮されている。</li> <li>◆大きな区分である「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「生活の中の書」のそれぞれにメインカラーが設定され、見た目の区別がつきやすくなっている。</li> <li>◆用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。</li> <li>◆活字は鮮明で読みやすい大きさ・書体であり、写真・図版も全ページ4色刷りであり、鮮明で見やすく分かりやすい。</li> <li>◆表紙はビニルコーティング加工により、墨による汚れに対応できるようになっている。</li> <li>◆造本においては、再生紙・大豆油インキを使用しており、環境への配慮がうかがえる。</li> </ul>
4 総合 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>*上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆導入では、中学校書写との接続を図りながら芸術科書道として学習する内容が図を用いて丁寧に解説されており、スムーズに学習に入ることができるようになっている。</li> <li>◆3つの分野「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」とともに、書道Ⅰの学習に必要な教材を分量的にも学習指導要領の内容からもバランスよくページ配分されている。</li> </ul>

項目	観 点	書Ⅱ 特色・具体例	書Ⅲ 特色・具体例
1 内容の 選択・ 程度	<p>*学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。</p> <p>*基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。</p>	<p>◆書道の創造的な諸活動を通して個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすため、A表現、B鑑賞の教材がバランスよく、しかも相互に関連を図りながら適切に配置されている。</p> <p>◆「漢字の書」では、篆書・隷書・草書の書体についての歴史が図版と対応して詳細に解説され、生徒の理解に配慮されている。また、筆使いの写真や骨書き・筆順例等が示され、生徒が負担なく取り組めるようになっている。</p> <p>◆「仮名の書」では、多様な古典が数多く掲載されており、表現と鑑賞の学習が相互に関連しながら学習できるように配慮されている。また、創作へのヒントが平易にまとめられており、学習の手がかりとなる工夫がされている。</p> <p>◆「漢字仮名交じりの書」では、「漢字の書」や「仮名の書」で学習した古典を参考にして創作できるように配慮されており、実態に応じてそれらに関連させた学習が可能である。</p>	<p>◆書道の創造的な諸活動を通して、感性を磨き個性豊かな書の能力を高めるため、A表現、B鑑賞の教材がバランスよく、しかも相互に関連を図りながら適切に配置されている。</p> <p>◆「漢字の書」では、五書体すべてにおいて、基本的な古典はおさえながら近年出土した文字資料や発展的な古典まで幅広く網羅されている。また、適宜教材文字の骨書きや筆順例が示され、生徒が負担なく学習できるようになっている。</p> <p>◆「仮名の書」では、平安時代から江戸時代までの古典が時代を追って数多く掲載され、伝統文化としての仮名の書への理解を深め、その多様な美を感じられるように、また、その変遷も見渡せるように構成されている。</p> <p>◆「漢字仮名交じりの書」では、漢字仮名交じり文の成り立ちについて理解したうえで、漢字や仮名の古典を参考にしたり用具・用材で変化をつけたりして、幅広い創作ができるようになっている。</p>
2 組織・ 配列・ 分量	<p>*内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</p>	<p>◆「漢字の書」では、時代や書風、歴史的評価の定まった古典や新出土資料など、教材がさまざまな観点から精選されている。また、五書体が偏りなく提出され、創作にも役立つ構成となっている。</p> <p>◆「仮名の書」では、高野切第一種では造形や線の太細・墨継ぎといった基本的事項、関戸本古今集では連綿、継色紙では散らし書きに着目し、古典に対しての学習事項が適切に組織されている。</p> <p>◆「漢字仮名交じりの書」では、発展教材として隷書や篆書を生かした表現が紹介されており、また用具・用材や紙面構成といった表現の工夫が取り上げられているなど、効果的な創作につながるよう配慮されている。</p> <p>◆「篆刻」では印の歴史や書道Ⅰの学習を発展させた内容、「刻字」では制作過程をフローチャートで示すなど、要点が分かりやすくまとめられている。</p> <p>◆「書の歴史と文化」(中国・日本)は、豊富な図版を用いて書の周辺文化にもふれながら解説されており、学習内容の確認や生徒の自学自習にも適している。</p>	<p>◆導入に際しては、生徒を書の美にいざなう工夫や、書道Ⅲにおける表現と鑑賞の学習内容が簡明に説明されている。</p> <p>◆「漢字の書」「仮名の書」では、それぞれで学習した古典を基に創作活動ができるよう組織されている。また、「漢字の書」では書の表現の着想となるヒント、「仮名の書」では書作品での空間に着目させる記述があり、ともに効果的な創作活動が展開できるよう配慮されている。</p> <p>◆「漢字仮名交じりの書」では、古典を生かした創作活動ができるよう配慮されている。また、漢字に調和するさまざまな書きぶりの平仮名が掲載されているので、個性豊かな創作につながる事ができる。</p> <p>◆「篆刻」では制作における古典資料の取り入れ方と多様な表現、「刻字」では陰刻や陽刻、作品形態、色彩の異なる作例から刻字の魅力が示されるなど、工夫されている。</p> <p>◆「書論」は、日中の古い書論から現代人の書に関する著述まで、古典などの教材と関連させながら随所に取り上げられており、書論を通して書の歴史と伝統を尊重し、書についての総合的な理解を高められるように配慮されている。</p>
3 表記・ 表現および 使用上の 便宜	<p>*学習意欲を高めるための配慮がなされているか。</p> <p>*用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。</p> <p>*印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</p>	<p>◆学習の導入にあたっては、生徒を書の美にいざなう工夫や、書道Ⅱの学習内容や表現と鑑賞の基本的な説明が簡明に述べられ、学習の意義が理解できるように考慮されている。</p> <p>◆全ページ4色刷りの鮮明で臨場感のある図版は、生徒の学習意欲を喚起することができる。</p> <p>◆用語や表記は統一されており、効果的に色文字や記号が使用されている。</p> <p>◆解説文は敬体文で、単元名やリード文が「…学ぼう」「…しよう」など能動的であり、主体的な書の学習に取り組むことが示唆されている。</p> <p>◆現代の生活に根ざした書や著名な人物の手書き文字が紹介され、高校生が書を身近なものに感じられるように配慮されている。また、書を生活に生かせるよう、主体的学習態度の育成につながる工夫がされている。</p> <p>◆表紙はビニルコーティング加工により、墨による汚れに対応できるようになっている。</p> <p>◆造本においては、再生紙・大豆油インキを使用しており、環境への配慮がうかがえる。</p>	<p>◆手書き文字がもつ力や温もり、拓本の意義や実際の手拓方法について、随所に写真を交えたコラムが掲載され、書を身近に感じられる助けとなっている。また、書道以外の芸術から受けた感動を自分の言葉で「書」表現する試みに工夫が見られる。</p> <p>◆全ページ4色刷りでとても見やすく、拓本や作品の迫真性が示されており、生徒の学習意欲を喚起し、臨場感をもって表現および鑑賞学習ができるようになっている。</p> <p>◆古典図版とともに、所蔵地や発掘現場の写真、作者の写真といった関連図版が多く掲載され、生徒の理解が深まるよう配慮されている。</p> <p>◆用語や表記は統一されており、効果的に色文字や記号が使用されている。</p> <p>◆解説文は平明で簡潔に述べられており、生徒が理解しやすいよう配慮されている。</p> <p>◆表紙はビニルコーティング加工により、墨による汚れに対応できるようになっている。</p> <p>◆造本においては、再生紙・大豆油インキを使用しており、環境への配慮がうかがえる。</p>
4 総合 所見	<p>*上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。</p>	<p>◆書道Ⅱの学習内容にふさわしい教材(古典)が多数掲載され、教材の取捨選択が可能で、個や学校の実態に応じた授業が組み立てられるような内容になっている。</p> <p>◆書の多様な表現が丁寧な解説と鮮明な図版で紹介されており、書の素晴らしさを十分に伝えられる教科書である。</p>	<p>◆書道Ⅲの学習にふさわしい教材(古典)が多数掲載され、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」または「鑑賞」のうち一つ以上を選択して学習したり、「漢字の書」「仮名の書」では臨書または創作のいずれかを目的に応じて重点的に学習したりすることが可能になっている。</p>